

<広報資料>

平成 30 年 5 月 1 日 (火)

京都新聞社御中

株式会社エフエムあやべ (FMいかる)

ギャラクシー賞奨励賞受賞

第 20 回日本コミュニティ放送協会近畿地区協議会

放送活動優秀賞受賞

拝啓

薫風の候、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

テレビ、ラジオの番組、関係者に贈る賞として 55 年の歴史を誇るギャラクシー賞で弊社制作番組【歩き始める】が奨励賞を受賞しました。ギャラクシー賞奨励賞を地域メディアのコミュニティ放送局が受賞することは、極めて珍しいことです。

また、4 月 27 日 (金) 西宮市民会館で開催されました第 20 回日本コミュニティ放送協会近畿地区協議会近畿コミュニティ放送賞では、放送活動部門『ドローンによる災害状況の情報提供』が優秀賞を受賞しましたので、あわせてご案内申し上げます。

敬具

お問い合わせ

株式会社エフエムあやべ 井関

(TEL) 0773-42-9988 (FAX) 0773-42-9977 (mail) info※fmikaru.jp

<広報資料>

【ギャラクシー賞奨励賞 受賞作品の概要】

番組名：パーキンソン病患者と家族会「アヤベたんぽぽの会」の記録 『歩き始める』

放送日：平成 30 年 3 月 31 日

番組内容：原因は不明で治療法が確立されていない難病、パーキンソン病。治る見込みがない言
いしれぬ不安。手足が震える。次第に歩けなくなり、介護が必要になる。しかし、す
ぐに死ぬわけではない。死ぬ病気でないと言われても、いつか寝たきを約束させら
れる。綾部市に住む、木下広子さんは、21歳の時に出産をきっかけに発病、そして
40年間、この病気と向き合っている。木下さんが中心になって患者と家族会を立ち上
げたのは15年前。社会に認めてもらいたい、自分の力で歩きたい。そんな思いで始
めた演奏活動。演奏経験は全くないが、その姿は多くの感動を呼んだ。その過程を追
ったラジオドキュメンタリー番組。

【ギャラクシー賞の概要】

放送批評懇談会が主催する「ギャラクシー賞」は、日本の放送文化の質的な向上を目的とし、優
秀な番組・個人・団体を顕彰する賞として1963年に創設。テレビ・ラジオ・CM・報道活動の
4部門から構成され、「時代性に優れ、ジャーナリスティックな感覚を持ちえていること、かつ
作品として普遍的な力量を備えていること」を選考基準としている。ラジオ部門で今回選考の対
象となったのは、2017年4月1日から2018年3月31日に放送されたラジオ番組で入賞・奨
励賞が4月27日に発表された。これまで受賞しているのは、NHKや全国の大手放送局がほと
んどで、地域メディアであるコミュニティ放送局の受賞は極めて珍しい。

ギャラクシー賞奨励賞の受賞を記念して、『歩き始める』を再放送します。

5月13日(日) 11:00~12:00

【第20回近畿コミュニティ放送賞 放送活動部門 優秀賞】

近畿コミュニティ放送賞は、(一財)日本コミュニティ放送協会(略称:JCBA、本部:東京)
傘下の近畿コミュニティ放送協議会(28社加盟)が主催するコンテスト。地域文化の拠点とし
て活動を続けるコミュニティ放送各局が、放送内容の向上を図り、より聴取者ニーズに沿った放
送内容の確立を目指す目的で設立されました。今回は6部門80作品の応募があり、弊社はドロ
ーンを使用した災害時の情報提供が評価され、放送活動部門優秀賞を受賞しました。

お問い合わせ

株式会社エフエムあやべ 井関

(TEL) 0773-42-9988 (FAX) 0773-42-9977 (mail) info※fmikaru.jp